

環境

ダイハツグループは、トヨタグループの一員として「トヨタ地球環境憲章」を共有し、また、独自に「ダイハツ工業株式会社 環境方針」も定め、持続可能な社会の実現を目指したさまざまな取り組みを進めています。

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

SECTION

4



基本的な考え方

ダイハツは、環境への負担が少ないスモールカーでお客様の暮らしを豊かにしたい、そして、次の世代のために地球環境を守る責任を果たしたいと考えています。

ライフサイクルの観点から、すべての事業プロセスで環境負荷の最小化に取り組むとともに、優れた環境技術の導入を通じて、自然環境への負荷が軽いモビリティ社会の実現に取り組めます。

地球と社会との共生が私たちの責務であるという想いを実現するため、トヨタグループの一員として、2050年に向け

た長期目標「トヨタ環境チャレンジ2050」を共有し、その中期目標に「ダイハツグループ※環境戦略2035」及び、短期目標に「第8次ダイハツグループ環境取り組みプラン」を策定し、推進していきます。この環境戦略に沿って、カーボンニュートラルの実現、サーキュラーエコノミーの実現、ネイチャーポジティブの実現を目指した活動に挑戦します。

私たちダイハツグループで働く一人ひとりが高い環境保全意識を持ってこの戦略を実行していきます。

※ ダイハツグループ：子会社



ダイハツ工業株式会社 環境方針

1. 自動車やユニットの開発・生産・販売・廃棄に至るまで、環境に与える影響を検討し、ゆたかな環境の保全に努めます。
2. 環境についての目的と目標を設定し、環境汚染の予防と循環型社会、低炭素社会、自然との共生社会を目指します。
3. 環境に関する法規制や、会社の環境管理規定を順守します。
4. 環境への貢献を通じてダイハツらしさを追求できる人材を育成し、環境マネジメントシステムの継続的改善に取り組めます。
5. お客様一人ひとりを照らし、地域の方々や国内外の関係者との対話を大切にし、良識ある社会の一員として環境保護に取り組めます。

SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

ダイハツグループ環境戦略2035

[WEB](#)：ダイハツグループ環境戦略2035

「ダイハツグループ環境戦略2035」は、CN（カーボンニュートラル）・CE（サーキュラーエコノミー）・NP（ネイチャーポジティブ）・環境マネジメントへのチャレンジを分野ごとに目標を策定し構成しました。長期の目標は「トヨタ環境チャレンジ2050」を共有し、ダイハツならではの取り組みを進めます。

環境戦略2035



取り組み分野ごとの環境戦略と関連するSDGs



CN（カーボンニュートラル）チャレンジ

当社は、地球温暖化や気候変動の影響を軽減すべく、カーボンニュートラル（CN）を目指した活動として、ライフサイクル視点で温室効果ガスの排出量低減に取り組めます。自社での製造はもとより、原材料調達、輸送、製品使用、廃棄処理等サプライチェーン全体での活動エネルギーを見える化し、その効率的削減に努めます。

具体的には、生産、非生産、物流、国内販売会社でそれぞれ目標を設定しその実現を目指すとともに、材料・部品の製造時、車両走行時に排出されるCO₂削減に向けた取り組みを進めます。

関連するSDGs



CE（サーキュラーエコノミー）チャレンジ

当社は、社会と環境の持続可能性を実現するため、直線型から循環型への経済システム転換を積極的に推進します。3R[※]の視点、廃棄物削減や製品・素材の価値維持に加え、易解体性や材料の統一化など、リサイクルを前提とした設計・技術開発を進めます。

今後の国際的な規制動向にも対応しつつ、自工会をはじめとする各種関連団体と連携し、循環型社会の実現に貢献します。

関連するSDGs



NP（ネイチャーポジティブ）チャレンジ

ダイハツグループとして生物多様性の重要性を認識し、地域社会と連携した生態系の健全性の回復や情報開示、自然を活用した社会課題の解決に取り組めます。

生物多様性保全と企業活動の両立を図り、生態系の損失を止めて反転させる「ネイチャーポジティブ」の実現に貢献し、自然と共生する持続可能な社会を目指します。

関連するSDGs



環境マネジメント

ダイハツグループの環境活動は、環境マネジメントシステムをベースとしております。

具体的には、法令違反や環境事故・苦情の未然防止、化学物質管理の徹底、活動指標の高水準維持管理、教育・啓発・コミュニケーションの強化です。

これらの活動は、連結子会社に加え、今後連携強化が期待されるサプライチェーンへの拡大も視野に入れていきます。

関連するSDGs



※3R：Reduce（発生抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再資源化）

SECTION 4

環境

31 環境への取り組み

35 環境マネジメント

38 環境負荷物質の管理

40 CNチャレンジ

44 CEチャレンジ

47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1

ダイハツ工業とは

SECTION 2

ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3

ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4

環境

SECTION 5

社会

SECTION 6

コーポレートガバナンス

第8次ダイハツグループ環境取組みプラン



ダイハツは「第8次ダイハツグループ環境取組みプラン(短期目標)」を策定し、2026年4月より取り組みを開始しています。
CN(カーボンニュートラル)、CE(サーキュラーエコノミー)、NP(ネイチャーポジティブ)、環境マネジメントを柱に、32項目で目標を設定しました。
また国内外連結子会社においても、ダイハツの環境取組みプランに沿った活動・目標を設定しました。

CNチャレンジ (Carbon Neutrality)

カテゴリー	取組み項目	目標・実施事項
 CN Challenge	製品CN	素材・部品におけるCO ₂ 排出量削減
		● 素材、部品のライフサイクルCO ₂ 見える化に取組み、CO ₂ 削減アイテム選定、削減効果を検証 ● バイオ由来、リサイクル材や低CO ₂ 材料の採用、軽量化、設計改善等によりCO ₂ 排出量低減を推進
		グローバル新車CO ₂ 排出量低減と燃費性能の向上
		グローバル新車CO ₂ 排出量低減 ①国内 ● 2030年燃費達成基準達成に向けた継続的な燃費向上を推進 ● トップクラスの燃費性能を目指した開発 ②海外 ● 現地インフラや社会情勢に適応したダイハツ燃費向上技術を展開
	生産・非生産・物流・販売会社CN	多様化するエネルギー源を活用したモビリティの開発
		● 電動車の技術開発とともに市場導入を推進 ● 多様化するエネルギー源を活用し、社会構造の変化や自動車の使い方変化に対応した低炭素かつ多様なモビリティの開発
		各国、各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減
		● 各国、各地域の都市環境改善に資する低濃度排出ガス技術の開発と着実な導入
		CO ₂ 排出量削減
		活動目標 ● グローバルCO ₂ 排出量 (2019年度比) △50% 実施事項 ● 省エネ運用の強化 (生産) ● SSCの追求による徹底した再エネ化 ● 革新技術の開発と織込み (物流) ● 省エネ機材への切替促進 ● 輸送効率化の促進 (国内販売会社) ● 既存販売店舗リノベーションによるZEB化推進
		再エネ電力の導入拡大
		活動目標 ● グローバル(消費電力ベース) 50%以上 実施事項 ● 自前太陽光発電の導入拡大や最適な外部調達手法を組合せた再生可能エネルギーの導入

CEチャレンジ (Circular Economy)

カテゴリー	取組み項目	目標・実施事項
 CE Challenge	3R配慮設計の推進	● 3R配慮設計の拡大、モデル化で資源循環促進に貢献 ● リサイクル設計の更なる推進 ● 材料共通化、材料使用量削減
	日本で培った廃車適正処理・再資源化技術による国際貢献	● 各国リサイクル関連法規に遅滞なく対応
	希少資源、廃車・廃部品の3R技術・システムの開発	● 自動車リサイクルシステムへのLIB等出荷情報や資源回収推奨部品情報の掲載
	自動車リサイクル材の採用拡大	● リサイクルプラスチックの採用部品拡大 ● リサイクルに適した材料の採用検討

31 環境への取り組み

35 環境マネジメント

38 環境負荷物質の管理

40 CNチャレンジ

44 CEチャレンジ

47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

第8次ダイハツグループ環境取組みプラン

NPチャレンジ (Nature Positive)

カテゴリー	取組み項目	目標・実施事項
	生態系の健全性の回復を図る活動の推進	地域特性に応じた活動を推進 取組み項目 1. 指標種選定と調査 2. 生息環境を維持、改善 3. 絶滅危惧種の保全 4. 侵略的外来種の防除 5. NPイベント実施 ● ダイハツ2拠点で、全項目を推進（「自然と共生する拠点」） ● ダイハツ6拠点とグループ会社で、一部項目を選定し、推進
	生物多様性に関する情報開示	活動成果を公式ホームページなどで報告
	自然を活用した社会課題解決の推進	情報収集とスキームを確立

環境マネジメント

カテゴリー	取組み項目	目標・実施事項
	環境マネジメント	連結環境マネジメント ● ダイハツグループ各社と連携した、効果的かつ効率的なマネジメント体制構築 ● 調達活動に関連するガイドラインの適宜見直しと展開（改定都度） ● ISO14001規格変更（2026年3月）への確実な対応 ● ダイハツ販売会社環境認定制度の継続
		リスク管理 ● 各国、各地域の環境法令順守と環境リスク未然防止活動の徹底強化
		コミュニケーション ● ダイハツグループグローバル環境連絡会の年次開催 ● ダイハツ単体では、環境保全事務局連絡会の年2回以上開催 ● ダイハツグループ各社との相互情報共有
		教育・啓発 ● 環境教育の継続実施とダイハツグループ各社への展開 ● 環境月間活動展開等の情報発信による、ダイハツグループ各社を含む従業員の環境意識醸成
	化学物質管理	購入/使用する資材、車両部品、補給部品、および用品の入口での徹底管理 ● 購入/使用する資材、車両部品、補給部品、および用品に禁止物質が含有されていないことを、新規の購入計画時にそれぞれのしくみを使って確認する
		化学物質管理業務のプレゼンス向上を狙いに、社員教育や啓発活動を推進 ● ダイハツ内で化学物質、およびその管理の仕組みについての教育資料（e-learning）を作成し、その維持管理の仕組みを確立する ● 各教育資料の受講対象者を明確にし、受講を確実にフォローすることで、化学物質管理に対する意識醸成を図る
		仕入先様の化学物質管理の現状を把握し、支援が必要な仕入先様に対して支援を行う ● 対象となる仕入先様に化学物質管理の自己診断シートを定期的に展開し、結果解析から仕入先様現状を評価、把握する ● 仕入先様支援（監査、およびそのフォロー）の要否を判断し、支援必要な全ての仕入先様に対し、支援を実施する
	環境活動指標	グローバルで廃棄物排出量の削減・管理（資源の有効活用） ● ダイハツ：19.5kg/台以下 ● グローバル：39.0kg/台以下
		プラスチック廃棄物排出量の削減・再資源化の促進（プラスチック資源循環促進法対応、ダイハツのみで目標値設定） ● ダイハツ：排出量2.7kg/台以下 ● ダイハツ：再資源化率70%以上
		グローバルで取水量の削減・管理（水資源へのインパクトの最小化） ● ダイハツ：4.2m³/台以下 ● グローバル：3.4m³/台以下
		各国の排水基準に対して各社で確実な排水管理（規制値よりも厳しい自主基準値での管理） ● ダイハツ：自主基準値以下 ● グローバル：自主規制値以下
		VOC（ボデー塗装）排出量の削減・管理（大気汚染の防止） ● ダイハツ：26.0g/m²以下 ● グローバル：31.0g/m²以下
		VOC（バンパー塗装）排出量の削減・管理（大気汚染の防止） ● ダイハツ：670g/m²以下 ● グローバル：570g/m²以下

31 環境への取り組み

35 環境マネジメント

38 環境負荷物質の管理

40 CNチャレンジ

44 CEチャレンジ

47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

基本的な考え方

ダイハツグループはグローバルで、環境事故や苦情、およびコンプライアンス違反ゼロを目指して環境保全活動に取り組んでいます。その手段として、環境マネジメントシステム（EMS）の国際規格であるISO14001を活用しています。国内外の関係会社すべてが、ISO14001に準拠したEMSの仕組みを使って活動し、それぞれの地域で信頼される会社を目指していきます。

こうした取り組みのもと、国内連結対象会社の生産子会社すべてが認証を取得し、更新・維持しています。

取り組み

環境法規制などに関するリスク管理

生産活動に関係する環境法規制、条例などの制定・改正などに漏れなく対応するため、EMSを構築・運用しています。設備導入においても、設備導入における環境保全やエネルギー削減の事前検討（計画段階）、導入確認検査（稼働前）、社内定期監査（稼働中）を業務の仕組みに組み込み、確実にEMSのPDCAを回しています。重大な環境事案が発生した場合は、社内リスクマネジメントシステムに従い、内容に応じて経営層への速やかな報告、およびしかなるべき組織にて対策実施、完了までをフォローする体制を構築しています。

2025年度実績

法令違反1件（解決済み）
環境事故、異常・苦情0件

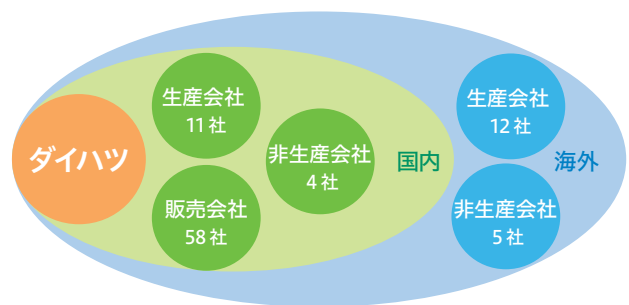
環境マネジメント体制

環境担当役員が議長を務め、全部長・部格室長、工場長などをメンバーとする「全社環境WG」のもと、全社の環境マネジメント強化を図っています。特に「第8次ダイハツグループ環境取組みプラン」で掲げた環境マネジメントに関する取組み項目に注力しています。

「サステナビリティ推進体制」についてはP.26をご参照ください。

環境マネジメント対象会社

ダイハツの企業活動によって生じる環境負荷は子会社や取引先様も含んでおり、グループ全体での環境保全活動を実施する必要があります。資本関係と業種により、関係する会社を下図のようにグループ分けし、ダイハツグループ全体の環境面でのマネジメントを推進しています。



（2026年9月末現在）

GRI > 2-12, 2-13, 2-16, 2-24, 2-27, 3-3, 308-1

ダイハツグループ内での取り組み

情報共有

年2回、海外を含むグループ全体での連携強化・情報共有として、グローバル環境会議を2025年度から開催しています。

サプライチェーンでの取り組み

「ダイハツグリーン調達ガイドライン」は、「ダイハツグループ環境取組みプラン」を踏まえ、企業が考慮すべき環境課題を幅広く扱い、取引先様に必要な対応をお願いしています。

PDF: ダイハツグリーン調達ガイドライン

国内販売会社での取り組み※

販売会社の申請に基づき、当社の審査員が環境マネジメント体制や環境保全の取り組みを現地で審査し、基準を満たした販売会社を「ダイハツ・クリーンマネジメント・ディーラー」と認定しています。認定の有効期間は3年間で、その間も年1回の自主診断を通じて改善を進め、環境への取り組みを強化しています。

※出資比率にかかわらず国内販売会社全社対象

P.42「国内販売会社での取り組み」をご参照ください。

SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

教育・啓発

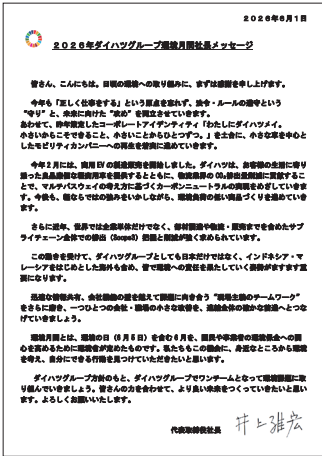
基本的な考え方

ダイハツの環境教育は、従業員一人ひとりが環境保全活動への知識と理解を深め自ら進んで行動する「環境意識の高い人づくり」を目的とし、従業員の業務内容に応じて体系的に行っています。

取り組み

環境月間

毎年6月を「環境月間」と定め、環境意識の向上に向けた取り組みを展開しています。その一環として、社長による環境メッセージを発信し、グループ全体で意識共有を図っています。



社内へ発信した社長メッセージ

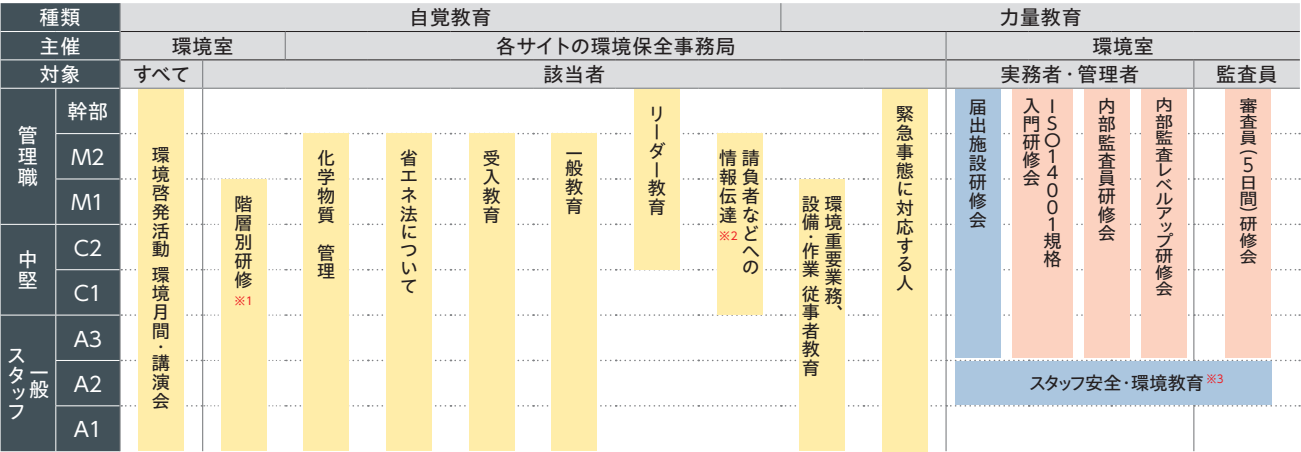
環境教育

新入社員や従業員を対象に、「受入教育」「一般教育」を実施し、仕事と環境との関わりや責務について、各事業場の教育担当者が中心となって教育しています。また、環境取り組みを推進する従業員には、「環境マネジメント教育」「順法研修」などの専門教育も行っています。



内部監査員研修会

環境教育体系図



- ※1 階層別研修：
〈M1〉SQCDにEを織り込める、バランスの良い管理職の育成：環境取り組みプランの理解と実行
〈C2〉環境保全活動への理解と法を守る人の育成：環境法規の概要と社内ルール
〈新任職長級〉環境保全活動への理解と法を守る人の育成：環境関連法と環境異常ヒヤリ事故の防止
〈新入社員〉企業が取り組む環境保全活動の理解：地球環境問題の基礎知識、車の環境性能について など
- ※2 常駐事業者・請負事業者への情報伝達、納入事業者への情報伝達、工事を行う元請事業者への情報伝達
- ※3 スタッフ安全・環境教育：環境法規の概要、環境保全事前検討、エネルギー事前検討、化学物質事前検討

SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

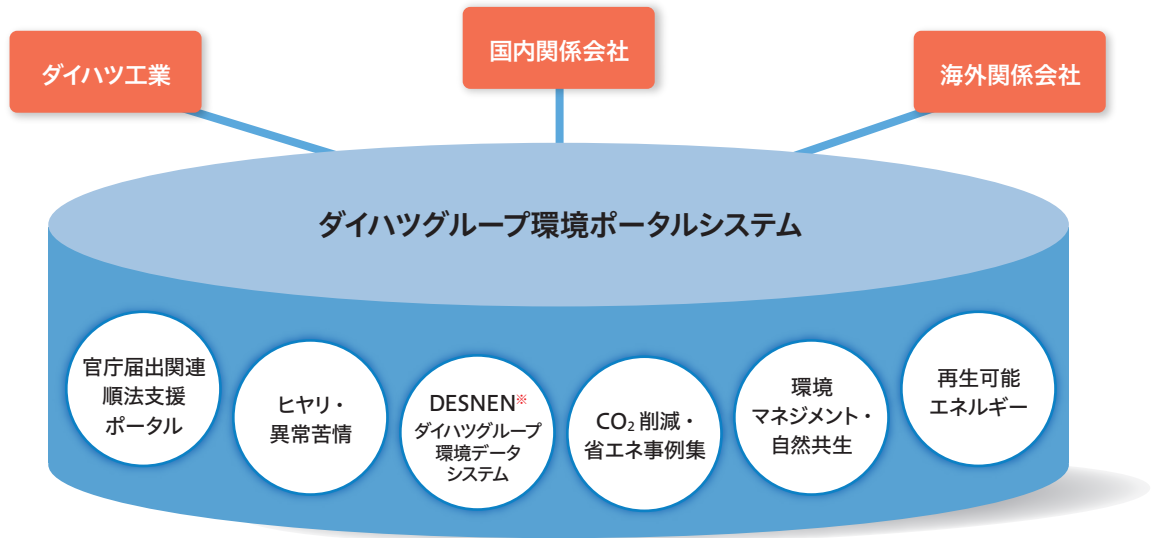
- トップメッセージ
- SECTION 1
ダイハツ工業とは
- SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー
- SECTION 3
ダイハツ工業のサステナビリティ
- SECTION 4
環境
- SECTION 5
社会
- SECTION 6
コーポレートガバナンス

ダイハツ環境コミュニケーションシステム

関係会社と環境情報を共有できる
インフラを構築

ダイハツは、関係会社※とのコミュニケーションを強化し、環境戦略の目標達成に向けた取り組みを進めるため、環境情報を共有するインフラを構築しています。このシステムの運用により、人手に依存していた環境パフォーマンスデータの収集の効率化や、各情報のライブラリ化が実現でき、環境への取り組みの質の向上にもつながっています。

※子会社、持分法適用会社、重点会社（出資関係はないが重要な会社）、国内販売会社



※DESNEN : Daihatsu Environmental data System of NEw Network

名称	内容
官庁届出関連順法支援ポータル	官庁届出に関連する「安全」「消防」「高圧ガス」「電気」「建築」「動力」「エネルギー」に関する法律や条例の一覧と内容、その解説書や教育資料を掲示
ヒヤリ・異常苦情	ヒヤリ（事業所の敷地内で発生した重大な災害につながりかねない事象）や異常苦情（事業所の敷地外に影響を及ぼす事故）についての情報を提示・共有
DESNEN ダイハツグループ環境データシステム	関係会社からエネルギー使用量・廃棄物量・水使用量・VOC排出量などの環境パフォーマンスデータを集約・管理
CO ₂ 削減・省エネ事例集	2035年の生産カーボンニュートラル達成に向けたダイハツの工場および生産子会社でのCO ₂ 排出削減事例や省エネ事例の共有
環境マネジメント・自然共生	環境マネジメントや自然共生への取り組みに関する情報の発信と共有
再生可能エネルギー	太陽光発電をはじめ再エネの活用に関する情報の発信と共有

SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

- トップメッセージ
- SECTION 1
ダイハツ工業とは
- SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー
- SECTION 3
ダイハツ工業のサステナビリティ
- SECTION 4
環境
- SECTION 5
社会
- SECTION 6
コーポレートガバナンス



基本的な考え方

購入資材や部品に含まれる化学物質を調査、入口管理し、法規や社内規程で定めた使用禁止物質が含まれていないことを確認しています。

取り組み

サプライチェーン全体での管理強化

購入部品に含有する化学物質はIMDS^{※1}で管理し、世界各国の化学物質に関する規制に対応しています。

生産工程・事業所で使用する資材はPRTR-WORLD^{※2}によって管理し、各国の規制に対応するとともに、届出対象となる化学物質の排出・移動量を把握し、適切に行政に届出しています。

国内外の関係会社でも同様の化学物質管理を行うために、定期的な情報共有やサポートを行っています。

仕入先様にも化学物質管理の重要性を理解いただくため、自動車業界団体で作成した自己診断シートを用いて、管理レベルの把握と維持・向上を図っています。

規制・基準

全事業所	● 化学物質排出把握管理促進法 ● 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 ● 日本自動車工業会自主規制 ● 社内規程（図面品質確保）
------	---

基本的な考え方

ダイハツは、生産活動における環境負荷物質の取り扱いについて、環境取組みプランのほか、各種法規制に則り、適正に管理・低減しています。

工場の排出ガスには、大気汚染防止法により設備ごとに規制値が設けられています。ダイハツは、生産工場からの排出ガスによる大気汚染を防ぐため、ボイラーや暖房機の排出ガスを定期的に測定・監視することで、SOx（硫黄酸化物）やNOx（窒素酸化物）の濃度を規制値よりはるかに低いレベルで維持・管理しています。

取り組み

VOC低減の取り組み

大気汚染の原因となるVOC^{※3}の排出については、環境取組みプランのもと、主たる排出工程である塗装工程において、各種排出量削減活動を実施してきました。塗料の塗着効率を向上させるための自動化、ロボット化、静電化や、機器洗浄後のシンナー回収などです。また、VOCを抜本的に削減するため、京都(大山崎)工場およびダイハツ九州(株)大分(中津)工場では、中・上塗塗料の水性化も実施しています。さらに、生産活動で取り扱う化学物質については、法規制などに従って定めた使用禁止物質などの入口管理を行っています。

環境計量証明事業所（大阪府登録）

ダイハツは、水・大気・土壌中の汚染物質の濃度などを正確に計量し、その結果を公的に証明することのできる「環境計量証明事業所」として大阪府に登録しています。社内の環境測定担当部署がその役割を担い、ダイハツの企業活動によって発生する各種の排出ガスや、排水の中に含まれる有害物質が法定の基準値を超えないよう、サンプリングと化学分析を行い、各事業所と連携しながら環境異常の未然防止に努めています。また、従業員の健康を守るため、有資格者による作業環境測定も行っています。

規制・基準

本社（池田）工場	● 大気汚染防止法 ● 大阪府条例
京都（大山崎）工場	● 大気汚染防止法 ● 京都府条例
滋賀（竜王）工場	● 大気汚染防止法 ● 滋賀県公害防止条例
ダイハツ九州株式会社 大分（中津）工場	● 大気汚染防止法 ● 大分県条例

※1 International Material Data System：自動車業界向け材料データベース
※2 PRTR-WORLD：PRTR（Pollutant Release and Transfer Register）法に基づく化学物質届出の行政報告支援、国内外の法令適合性チェックを行うシステム（(株) 日立製作所提供）
※3 Volatile Organic Compounds：揮発性有機化合物。塗料などに含まれるトルエン、キシレンなどが代表的な物質

水資源

基本的な考え方

ダイハツグループでは、事業活動における水環境への影響を最小化すべく、水使用量の削減や排水の浄化による還元・再利用など、さまざまな取り組みを進めています。

取り組み

水使用量削減

ダイハツグループでは、車両生産拠点で塗装工程を中心に、水使用量の削減活動を推進しています。前処理・電着洗浄工程では、洗浄に使った水を有効に活用するなど、再利用を徹底して使用量削減に努めています。また、革新技術のダンボールフィルター式塗装ドライブースを開発・導入し、従来の未着塗料回収方法である水シャワー式（気液混合）回収から、ドライフィルターとすることで水使用量削減も図っています※。このように数々の水使用量削減活動により、1995年当初は1台当たり6m³だった水使用量が現在では半分以下となりました。今後も、SSC（シンプル・スリム・コンパクト）なクルマづくりをさらに究めて水使用量の最小化を図り、水資源の保全に貢献していきます。あわせて、各拠点の立地や水資源の状況など地域特性も踏まえながら、水使用にともなうリスクの把握と適切な管理に努めています。

※当該技術は2022年12月に一般財団法人 機械振興協会主催の機械振興賞を受賞しています。

排水浄化・利用

滋賀（竜王）工場では、琵琶湖の水質を守るため、大規模な工場排水の浄化設備である「アクアセンター」を設置し、工場排水をほぼ飲めるレベルまで浄化して放流しています。また、同工場では、構内の排水処理場で浄化した水を湿式集塵機の用水に再利用しています。海外生産拠点があるインドネシア・マレーシアでは、工場排水が下流にある飲料水採取場に影響を及ぼすことのないよう、排水に細心の注意を払っています。



滋賀（竜王）工場第3アクアセンター



アクアセンターで浄化された後の工場排水

排水基準

ダイハツグループでは、各工場とも国や自治体が定める排水基準を上回る自主基準を設定し、クリーンなレベルまで浄化を行った後に放流しています。

また、排水先の特性や地域の水環境にも配慮しながら、継続的に水質の維持・管理に取り組んでいます。

規制・基準

本社（池田）工場	● 水質汚濁防止法 ● 池田市協定
京都（大山崎）工場	● 上下水道法施行令 ● 大山崎町公共下水道条例
滋賀（竜王）工場	● 水質汚濁防止法 ● 滋賀県条例 ● 竜王町公害防止協定書

SECTION 4

環境

31 環境への取り組み

35 環境マネジメント

38 環境負荷物質の管理

40 CNチャレンジ

44 CEチャレンジ

47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

基本的な考え方と目標

2050年カーボンニュートラル実現に向けて

ダイハツグループは「環境への取り組み＝企業が持続するための経営戦略」と捉え、日本政府が発表した目標である2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、製品・生産・物流などあらゆる分野でCO₂排出削減に取り組み、低炭素社会の構築に注力しています。

製品のカーボンニュートラルについては、最適なタイミングで国内で販売する車両を電動化し、走行時のCO₂排出削減を一層推進します。さらに、並行して、素材・部品に関するCO₂や燃料製造時に排出されるCO₂を削減する技術の研究開発も進め、2050年のカーボンニュートラル実現を目指します。

生産においては、2035年に生産カーボンニュートラルを達成する目標を掲げ、「SSC（シンプル・スリム・コンパクト）の追求による徹底した省エネ化」「革新技術の開発と織り込み」「再エネの活用」の3つのテーマに重点を置いてCO₂排出削減を図っています。さらに、非生産や物流の領域でも取り組みを進め、2035年までに生産・非生産・物流の3分野を合わせて、2019年比でCO₂排出を68%削減する目標です。

製品における取り組み

目標

2050年までにカーボンニュートラル達成を目指す

走行時のCO₂排出削減

適切なタイミングで、国内で販売する新車をHEV（ハイブリッド車）やBEV（バッテリー式電気自動車）などの電動車両へと切り替えます。その準備として、技術開発や普及に向けた営業・サービス体制の構築などにも力を入れて取り組んでいます。また、車両電動化に続けてZEV（Zero Emission Vehicle：走行時にCO₂などの排出ガスが一切発生しない自動車）やカーボンニュートラル燃料車の検討を進めています。

素材・部品におけるCO₂排出削減

まずは主要部品からCO₂の見える化に取り組み、排出量算定の精度を高め、排出量削減につながるアイテムの創出や管理方法の仕組み化を今後進めていきます。その後確立された知見やシステムを全車両に展開していきます。

ダイハツの電動化への取り組み

ダイハツは農林水産業、建設業、配送業など幅広い業種のお客様に対して、「働く相棒」としての軽商用車をつくり続けてきました。また、1960年代には他社に先駆けBEVを開発し、商用車の電動化にも積極的に取り組んできました。

ダイハツ初の量産BEV「e-ハイゼット カーゴ」、「e-アトレー」を2026年2月から販売しています。新開発の軽自動車に適したBEVシステム「e-SMART ELECTRIC」を搭載し、一充電走行距離WLTCモード（国土交通省審査値）257kmを達成するとともに、運転者の負担軽減につながるBEVならではの高い基本性能（走行性能、乗り心地、静粛性）も実現しました。

今後お客様の生活に寄り添った良品廉価な軽商用車を提供するとともに、物流業界のCO₂排出量削減に貢献することで、マルチパスウェイの考え方に基づいたカーボンニュートラルの実現を目指します。



SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

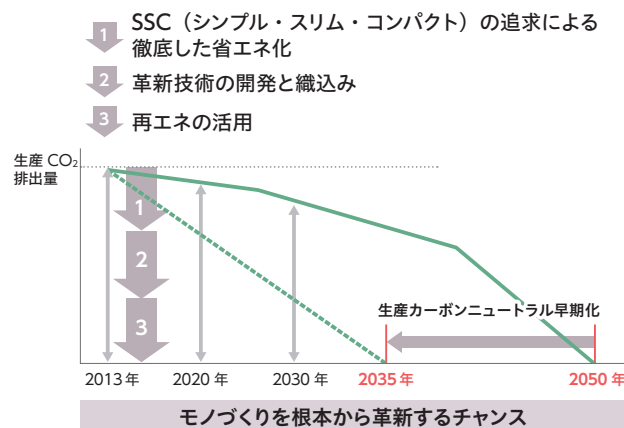
生産における取り組み

目標

2035年までに生産カーボンニュートラルを目指す

基本的な考え方

ダイハツグループは、従来2050年をターゲットにしていた「生産カーボンニュートラル」の実現をトヨタグループの一員として大きく前倒しし、生産工場から排出するCO₂削減を進めます。この高い目標を達成するために、2022年1月に専門組織として「生産・物流カーボンニュートラル推進室」を設け、「SSC（シンプル・スリム・コンパクト）の追求による徹底した省エネ化」「革新技術の開発と織込み」「再エネの活用」の三本柱活動として取り組んでいます。



取り組み

太陽光活用と再エネ拡大

再エネ導入において太陽光パネル設置を推進しています。今後は、さらなる太陽光パネルの活用を目指し、蓄電池を併用した太陽光発電システムの導入を計画しています。

また、さらなる再エネの利用拡大に向けて、自社外敷地でオフサイト発電（V-PPA）にも取り組んでいます。



水素の活用

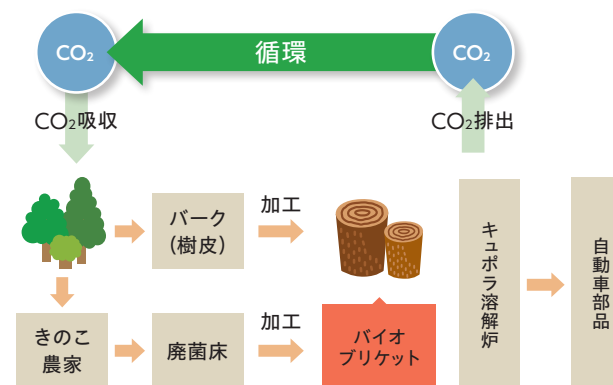
2035年の生産カーボンニュートラル達成に向けて、都市ガスから水素などへの燃料転換の検討を開始しています。導入にはさまざまな問題（安全、コストなど）があるため、まずはトライ導入・開発を行います。

バイオ燃料の活用

グループ会社の鋳造部品メーカーであるダイハツメタルとダイハツは、鋳造工程で使用する鋳造設備であるキュボラ溶解炉からのCO₂排出量削減に向け、共同でカーボンニュートラルなバイオマス燃料である「バイオブリケット」の製造技術を開発・確立し、キュボラ溶解炉での使用を開始しました。

原料としては、工場のある島根県出雲市の地域資源である廃菌床やバーク（樹皮）を使用し、株式会社コヤマにて確立した技術を用い、製造工場を立ち上げました。地元の自治体や企業と連携することで、安定的に地域からの資源を調達できる体制を整え、資源調達からバイオマス燃料の製造と活用までを一貫して行うエネルギー循環モデルを構築しました。

今後もダイハツメタルとダイハツは、地域の活性化と環境に優しい鋳造工場の実現を目指し、カーボンニュートラルに向けた取り組みを推進することで、持続可能な地域社会づくりに貢献していきます。



SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

非生産における取り組み

目標

**2035年までに非生産部門のCO₂排出量を
2019年比で14%削減を目指す**

基本的な考え方

ダイハツでは、非生産部門でもエネルギー使用量を低減する取り組みを推進しています。具体的には、事務所や研究開発および試験施設、福利厚生施設などの建物で使用するエネルギーを低減する取り組みと、社用車や試験で用いる燃料を低減する取り組みを行っています。

目標達成のため、2023年から専門部会を立ち上げ、照明や空調に必要なエネルギーの低減や再エネへの置き換えなどの取り組みを強化しています。

取り組み

エネDIET活動

地道な省エネ活動を自分事として実践するための啓発キャンペーン「エネDIET活動」を推進し、全従業員で省エネに取り組みます。



自動車技術を活用したエネルギーグリッドの開発

販売会社などの中小規模店舗のCO₂排出削減への貢献を目指し、太陽光発電などの再エネを効率的に活用するための電力変換システムを開発しています。これは、地域や施設単位で電力を最適に使う仕組みと、電力を効率良く変換・制御する装置を組み合わせたもので、一般的な市販システムに比べてエネルギーロスの低減が期待できます。車載技術や部品を活用することで、高品質で導入しやすいシステムの実現を目指しています。

九州開発センター技術館だけでなく、トヨタ自動車九州株式会社や前田建設工業株式会社とも実証実験を重ねており、将来的には外部からの電力供給への依存を抑え、地域やコミュニティ単位で電力を賄える仕組みにつなげていきます。また、他の工場や店舗などの小規模な事業所などへ横展することも視野に入れ、カーボンニュートラルの実現に向け、取り組みを加速させていきます。

構想例：エネルギーグリッド イメージ



国内販売会社での取り組み

国内の販売会社においては、CO₂削減目標の達成に向けた2035年までの各社ごとのシナリオ（ロードマップ）を策定し、店舗の状況に応じたカーボンニュートラルへの取り組みを本格的にスタートしました。

取り組みの方向性

- ①省エネ運用の強化（節電など）…………… 全店舗
- ②CO₂削減に向けたリノベーション…………… 既存店舗
- ③ZEB化（省エネ構造+創エネルギー）…………… 新築店舗

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とは

SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティ

SECTION 4
環境

SECTION 5
社会

SECTION 6
コーポレートガバナンス

物流における取り組み

目標

2035年までに連結物流子会社が
排出するCO₂を10%削減

基本的な考え方

ダイハツグループでは、物流で排出されるCO₂の総量削減を進めるべく、2022年から専門組織を立ち上げ、従来よりも一層取り組みを強化しています。

取り組み

輸送車両の電動化・低燃費化

部品輸送を担う子会社が保有するフォークリフトを、化石燃料を動力源とする車両から電動化車両に置き換えていきます。さらに、部品を輸送する大型トラックも最新の低燃費車両へ順次更新していきます。完成車輸送を担う子会社では、完成車を運搬するキャリアカーの積載率を向上させるとともに、キャリアカーを牽引するトラクターヘッドを最新の低燃費車へと更新していきます。



部品輸送を担う子会社では、ハイブリッド大型トラックと電動フォークリフトの導入を順次進めています

コンパクトだからこそその特性を活かした
鉄道輸送モーダルシフト

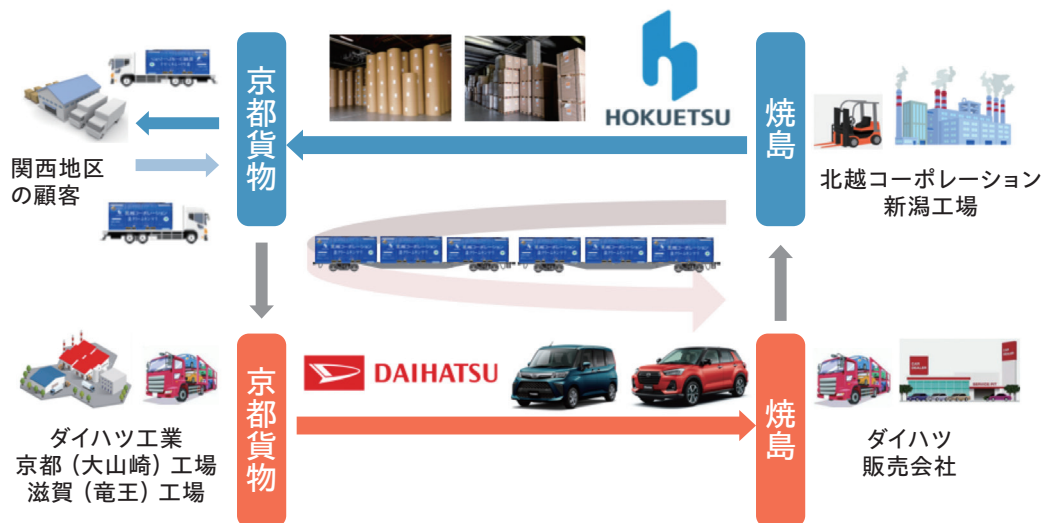
ダイハツの主力製品である軽自動車は、全長3.4m以下のコンパクトさを活かして鉄道コンテナに積載できます。この特性を活かし、当社はトラック輸送に比べてCO₂排出量の少ない鉄道輸送を進め、モーダルシフトによる環境負荷低減に取り組んでいます。1996年から京都貨物駅（梅小路）～新潟貨物ターミナル間で鉄道輸送を実施し、現在は8路線で運用中です。さらに、2025年2月からは、北越コーポレーション（株）、日本通運（株）、日本貨物鉄道（株）と共同で、小型車

の異業種ラウンドマッチング輸送を開始しています。今後も、小さいからこそできる鉄道輸送を広げ、CO₂削減につなげていきます。



コンテナからの車両荷下し

異業種ラウンドマッチング輸送のイメージ図



SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

基本的な考え方

自動車の製造には、鉄、アルミニウムなどの金属のほかに、樹脂、ガラス、ゴムなどさまざまな資源が使われます。ダイハツは、より“少”ない資源でつくれる小さなクルマづくりを目指しています。

同時に、廃車から回収される資源を再び自動車製造の原料として使用する2050年「Car to Car リサイクル」に向けて、これまでの開発・設計段階より、3Rしやすい車を開発することによる、“少”資源のクルマづくりを、継続深化していきます。

製品設計段階での自動車リサイクルの取り組み

基本的な考え方

日本の自動車リサイクル法のもとでは、ユーザー・政府・解体業者・処理業者・自動車メーカーが連携し、車両の99%がリサイクルされています。自動車メーカーがあらかじめ解体しやすい設計にしておくことも、その一環であり、分別回収による資源循環につながります。

取り組み

解体性マークなど表示設定

ダイハツは、解体時の作業性向上と資源循環の促進に向けて、「解体性向上マーク」を活用しています。ドアトリムの取り外し位置や燃料抜き取り位置、大型部品の解体ポイントをわかりやすく示すことで、解体作業を効率化しています。こうした工夫により、部品の適正処理や材料の分別回収を進め、再資源化の促進につなげています。

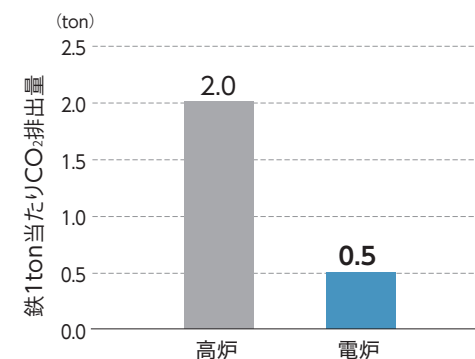


リサイクルに適した材料の開発

リサイクルに適したプラスチックである熱可塑性樹脂の開発を進め、自動車製造に必要な材料の統合化を図り、材料種類の削減に取り組んでいます。

リサイクル素材活用に向けた電炉鉄の採用拡大

エンジン、トランスミッションの一部の部品に一般的な高炉鉄に比べてCO₂排出量が約4分の1の電炉鉄を採用しています。今後は、さらなるCO₂削減に向け電炉鉄の採用拡大を進め、主要材料におけるリサイクル材の活用拡大と、活用状況の把握を進めていきます。

鉄製造プロセスによるCO₂排出量の違い

SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

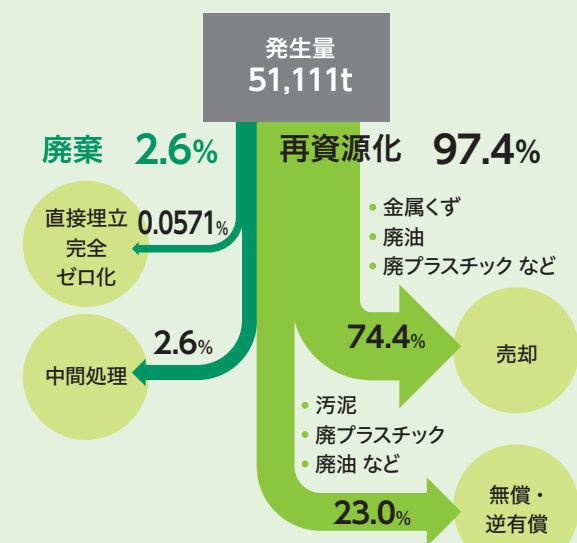
生産

基本的な考え方

これまでダイハツは生産時に発生する金属くずや廃プラスチックなどの再資源化に取り組み、工場から出る廃棄物の97.4%をリサイクルしてきました。一方で、廃棄物を再資源化するには回収や運搬、処理にエネルギーが必要です。そこで、ダイハツは廃棄物の発生量そのものを減らす「リデュース」に重点を置き、資源の有効利用を進めています。

排出物の処理フロー※

2025年（暦年）データ



※対象範囲：ダイハツ工業生産拠点およびダイハツ九州

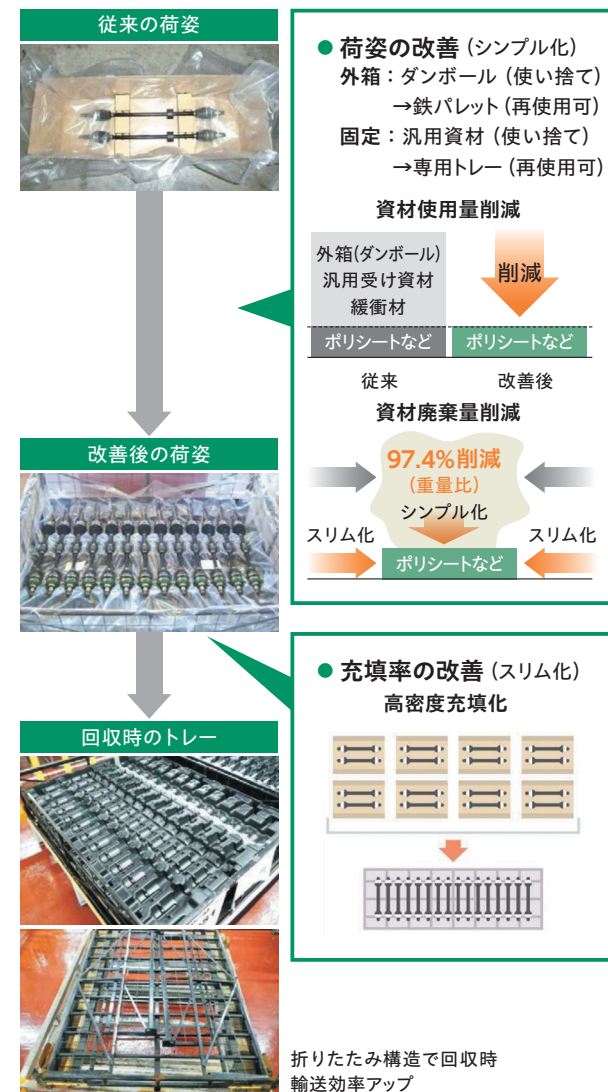
取り組み

廃棄物削減

プレス機で鉄板から部品を打ち抜く際は、金型の配置や鉄板の寸法を工夫することで、金属くずの発生を抑え、少ない材料とエネルギーで効率よく生産しています。ダイハツはこれように、廃棄物の削減に加え、より少ない材料でクルマをつくる技術開発を進めています。

ドライブシャフト荷姿改善による廃棄物削減

高い充填率および再使用可能な基本条件を満たしたうえで、さらなる軽量化を狙い、ドライブシャフト専用トレーの開発・使用により、ドライブシャフト梱包資材の廃棄物の量を97.4%（重量比）削減しました。あわせて、梱包材についても、使い捨て資材の削減やリターナブル化を進め、資源循環の観点から継続的な改善に取り組んでいます。



SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス

使用済み自動車のリサイクルの取り組み

基本的な考え方

ダイハツは、自動車リサイクル法の仕組みづくりに積極的に参加・協力するとともに、関係事業者と連携し、制度の定着やリサイクル率の向上に取り組んでいます。あわせて、リサイクル技術の高度化や、将来の電動車の普及に備えたスキームづくりも進めています。

取り組み

3品目（エアバッグ類、フロン類、シュレッターダスト）の引き取り、リサイクルの実施

ダイハツは、エアバッグ類、フロン類、シュレッターダストの適正処理に取り組んでいます。エアバッグ類とフロン類は、一般社団法人自動車再資源化協力機構を通じて、効率的な引き取りとリサイクル（フロン類は破壊）を実施しています。シュレッターダストは、豊通リサイクル株式会社のASR再資源化事業に参画し、他自動車メーカーと共同で引き取り・リサイクルを進めています。あわせて、エアバッグ類の一括作動処理コネクタの全車搭載や、フロン類の代替冷媒への切り替えなど、適正処理しやすい仕組みづくりも進めています。

電動車に対応した資源循環の推進

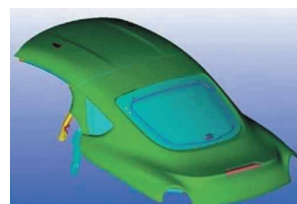
HEVやBEVに搭載されるリチウムイオンバッテリー（LiB）については、一般社団法人自動車再資源化協力機構（自再協）を窓口とする共同回収システムに参加し、適正処理を進めています。将来の電動車普及を見据え、関係機関と連携しながら、回収・リサイクルの仕組みの充実を図ります。

処理困難部品への活動

一部の樹脂外板部品には軽量化を目的にガラス繊維や炭素繊維を使用した部品があり、リサイクル処理が困難となっています。ダイハツでは独自に販売会社から処理困難部品を回収して処理しています。



樹脂外板部品（バックドアなど）



コペン限定車（CFRP製ルーフ）

再生プラスチックの活用

2024年9月、ダイハツが加盟する日本自動車工業会は、再生材の供給・活用促進に向けた「2050年長期ビジョンと中長期ロードマップ（含む 自主目標値）」を策定・公表しました。ダイハツは、この目標の達成に向けて、再生プラスチックの使用拡大を進めています。今後は、再生プラスチックをはじめとするリサイクル材について、主要部品における採用拡大を進めるとともに、使用量や使用率の把握・開示の充実にも取り組んでいきます。

修理交換済みバンパーリサイクル

販売会社で発生する修理交換済みバンパーを全国の販売会社から回収し、破碎・溶融・再ペレット化し、シートアンダートレイ、エンジンアンダーカバーなどのダイハツ車の部品としてリサイクルしています。



SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1 ダイハツ工業とは

SECTION 2 ダイハツ工業のストーリー

SECTION 3 ダイハツ工業の サステナビリティ

SECTION 4 環境

SECTION 5 社会

SECTION 6 コーポレートガバナンス

生物多様性の保全

基本的な考え方

ダイハツは「ダイハツ サステナビリティ基本方針」に基づき、持続可能な地球・社会の実現に向けた取り組みを進めています。その一環として、2016年1月にダイハツ「生物多様性ガイドライン」（自主方針）を取りまとめました。ガイドラインは生物多様性に関する取り組みの基本的な考え方と3つの取り組み項目（技術による貢献、社会との連携・協力、情報開示）で構成されており、このガイドラインに沿って生物多様性の具体的な取り組みを展開しています。

ダイハツ「生物多様性ガイドライン」

生物多様性の重要性を認識し「ダイハツ サステナビリティ基本方針」に基づき、住みよい地球・豊かな社会の実現とその持続的な発展を目指し、自動車およびその関連事業、社会課題への貢献などにおいて、生物多様性に取り組みます。

技術による貢献	ダイハツは緑化技術や環境技術などの可能性を追求することにより、生物多様性と企業活動の両立を目指します。
社会との連携・協力	ダイハツは地域社会・NPOなど、生物多様性に関係する社会の幅広い層との連携・協力関係を構築することを目指します。
情報開示	ダイハツは企業活動と両立する生物多様性に関する自主的な取り組みや成果を開示することにより、広く社会と共有し、もっと持続可能な社会の発展に寄与することを目指します。

取り組み

自動車産業は、資源調達、土地利用、製品使用や事業活動にともなう温室効果ガス排出などを通じて、直接的・間接的に生物多様性へ影響を与えています。そこで、ダイハツグ

ループでは、従業員や地域住民・自治体、市民団体、有識者と連携しながら、地域特性に応じた生物多様性保全活動を進め、ネイチャーポジティブの実現につなげていきます。

2025年の活動実績

取り組み	概要
河川・水辺の清掃活動	猪名川クリーン作戦、桂川流域クリーン大作戦、江原川自然環境保護活動、有馬川クリーン作戦などを通じた、水辺の生態系保全
森林・竹林の保全	地域由来のどんぐりやコバノミツバツツジの育苗・植樹、地域と連携した森林整備などの森林保全。また、竹の子狩り、竹の蹴倒しなどの竹林保全
ビオトープ・水路の保全	ビオトープや水路での環境整備や外来種防除など、生息環境の維持・改善
生きもの調査	春・秋の生きもの調査会や指標種調査を通じた生態系の状況把握
希少種の保全	ヤマトサンショウウオやイヌタヌキモなどを対象とした保全活動
従業員・家族向け環境学習	環境学習会などの体験学習を通じた、生物多様性の啓発や理解促進
子ども向け体験・学習活動	こどもエコクラブ全国フェスティバルやくるめ生きもの探検隊などを通じた、次世代への環境学習機会の提供
地域イベントでの啓発・発信	川西市環境フェスタ、久留米市WEB環境フェア、ひょうごユースecoフォーラムなどでの生物多様性の啓発やネイチャーポジティブ活動の紹介
工場や見学施設イベントでの発信	ダイハツ竜王フェスタやヒューモビリティワールド夏休みイベントなどでのネイチャーポジティブ活動の紹介、ワークショップの実施
外部団体・取引先様との連携	自治体、市民団体、博物館、取引先様などとの連携による保全活動や交流
他社・外部組織との知見共有、知識習得	オールトヨタ自然共生WGへの参画による知見共有、外部セミナーなどへの参加を通じた知識習得

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

- トップメッセージ
- SECTION 1
ダイハツ工業とは
- SECTION 2
ダイハツ工業のストーリー
- SECTION 3
ダイハツ工業のサステナビリティ
- SECTION 4
環境
- SECTION 5
社会
- SECTION 6
コーポレートガバナンス

活動事例紹介

「自然と共生する拠点」の推進

滋賀(竜王)地区および西宮部品センターでは、「自然と共生する拠点」を目指した活動を進めています。生物調査結果をもとに指標種を選定し、生息環境の維持・改善や外来種防除を継続しています。



セイタカアワダチソウの防除活動

地域の多様な生態系の保全

事業所周辺を流れる河川流域の清掃や、生きものの生息環境の整備を通じて、地域の生態系保全に取り組んでいます。池田地区や多田エンジニアリングセンターでは、猪名川流域の清掃活動を実施し、河川敷のごみ回収などを通じて環境保全を進めています。



猪名川流域の清掃活動

くるめ生きもの探検隊 in ダイハツ工業

ダイハツグループ九州開発センターでは、小学生親子向けの環境イベント「くるめ生きもの探検隊 in ダイハツ工業」を開催しました。生きものの観察やふれあいを通じて、自然や生物多様性への理解を深めるとともに、地域とのつながりを育む機会としています。ダイハツの環境への取り組みを知っていただく場にもなっており、参加者からは、生きものに「直接触れられて楽しかった」「季節ごとに参加したい」といった声が寄せられました。



九州開発センターのビオトープ生きもの観察

地域連携による生物多様性保全

ダイハツでは、自治体や市民団体、専門機関と連携し、地域に根差した生物多様性保全活動を進めています。多田エンジニアリングセンターでは自然保護団体「溪のサクラを守る会」と連携し、エドヒガンの保護につながる森林保全活動に参加しました。京都(大山崎)工場では、ヒメボタルの生息環境を守るため、竹チップ材の敷設などの環境整備を行いました。滋賀(竜王)工場では、竜王町民の方々と「竹の子狩り」を通じた竹林保全を行いました。

また、琵琶湖博物館とは継続的な連携を行っており、2016年から寄付を通じた支援を続けています。2018年か

GRI > 101-2, 101-4, 101-5, 101-7

らは環境学習会において、学芸員による講話や会場提供の支援を受け、生きものや生態系への理解を深める学びの機会につなげています。



エドヒガンの保全



天王山の竹林整備

生物多様性 びわ湖ネットワーク

企業や自治体、NPO、博物館など多様な主体が連携し、滋賀県の生物多様性保全を進めています。共通の取り組み「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え!～」では、県内のトンボ100種確認を目標に調査を進め、2025年度までに89種を確認しました。あわせて、保全対象10種に対する115件の保全活動を実施し、観察会や展示、学習会、現地交流会を通じて22,717人に発信するなど、生物多様性の理解促進と保全活動の広がりにつなげています。



滋賀県希望が丘文化公園のハッチョウトンボ生息環境整備

SECTION 4

環境

- 31 環境への取り組み
- 35 環境マネジメント
- 38 環境負荷物質の管理
- 40 CNチャレンジ
- 44 CEチャレンジ
- 47 NPチャレンジ

トップメッセージ

SECTION 1
ダイハツ工業とはSECTION 2
ダイハツ工業のストーリーSECTION 3
ダイハツ工業の
サステナビリティSECTION 4
環境SECTION 5
社会SECTION 6
コーポレートガバナンス